

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 駒田
日 時	令和6年1月19日（金曜日）	開 議	午前 9 時 30 分
		閉 議	午前 11 時 00 分
出席委員	◎木村、○法貴、林、片山、山木、小川、齊藤		
出席理事者	【まちづくり推進部】清水事業担当部長 [都市計画課] 田中課長、葛井主任 【上下水道部】伊豆田部長 [水道課] 吉村課長 【産業観光部】松本部長 [商工観光課] 玉井課長、谷主幹 [農林振興課] 荒美副課長兼有機・食農推進係長事務取扱		
出席事務局	井上事務局長、駒田主査		
傍聴者	市民 0 名	報道関係者 0 名	議員 0 名

会 議 の 概 要

9 : 3 0

1 開議（木村委員長あいさつ）

[事務局日程説明]

2 行政報告

[まちづくり推進部入室]

[まちづくり推進部長あいさつ]

（１）水と緑の基本計画の策定について

[都市計画課長 資料に基づき説明]

9 : 5 0

[質疑]

<小川委員>

素案の内容はすばらしいものであると思う。現在まちづくり推進部が中心になって進められているが、計画の推進に当たっては庁内の関係部署や、国・府、亀岡市内外の事業者などと連携をとっていただく必要があると思うが、所見は。

<まちづくり推進部事業担当部長>

亀岡市水と緑の基本計画策定委員会委員として、農業関係者や地元企業、自治会連合会などの関係者のほか、庁内から政策企画部も参加している。今後も関係者と連携しながら進めていきたい。

<小川委員>

計画の内容には国・府などが所管する部分も入っていたかと思う。今後連携をとりつつ進めていただきたい。また第3章で生物多様性の保全として既存の生き物との

関わりについても取り上げていただいているが、その辺りも十分考慮した上で進めていただきたい。これは要望としておく。

<齊藤委員>

歴史・文化が観光につながってくると考える。歴史・文化に詳しい方が計画策定委員会に入っていないと思うので、そういった方も委員に入っていただくべきではないのか。

<都市計画課長>

策定委員には入られていないが、基本計画素案１３ページの図「亀岡市のまちづくりを検討するうえで重要と考える視点」に掲載のとおり、歴史・文化という要素も重要な視点として計画に組み込んでいる。歴史・分野という視点も尊重し、庁内で連携を図りながら取り組みたい。

<齊藤委員>

食・農という観点では季節に応じた行事食ということもあるので、そういったことも含めてよろしくお願いします。

<片山委員>

素案の１４～１５ページに多様な視点から計画を進めていくための目標が記載されているが、指標としてはアンケートなどで市民の満足度を測るのか。また、今後この計画の基本的なコンテンツは変わらないのか。

<都市計画課長>

この計画は１０か年で作成しているが、未来永劫続くような計画として目標設定をしているため、あまり明確な数値を設定していない。アンケートなどで検証したいと考えており、今後都市計画マスタープランなどの計画を改定する際には整合性などの見直しを行いたいと考えている。

<片山委員>

検証することが計画には必要であり、ぜひ検討いただきたい。これは要望としておく。

<山木委員>

市民農園を造る計画はあるのか。

<都市計画課長>

市民農園として具体的な箇所は指定していない。市内で貸農園をされている市民の方がいるので、それを活用していただきたいと考えている。

<山木委員>

河原林町にある亀岡市農業公園もぜひ活用していただきたい。また、市民にこういった計画策定の取組が伝わっていないように感じる。機運を高めていくためにどのようなことに取り組まれるのか。

<都市計画課長>

現在策定中であるため、計画の策定後に関係部署とも連携して発信していきたい。

<木村委員長>

京都・亀岡保津川公園において整備されるオーガニックビレッジパークは、緑化フェアの会場のひとつになるのか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

会場のひとつになる予定である。整備を予定している場所にはアユモドキが生息しており、地形を変えるためには文化庁への届出と承認が必要である。アユモドキの生態にどういった影響を与えるのか、アドバイザーからのアドバイスも受けながら進めていきたい。

<木村委員長>

宇津根橋からサンガスタジアムに向かう堤防の道路は、緑化フェアに向けて整備されるのか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

当該箇所は市道保津宇津根並河線の工事であり、現在約半分ほど進んでいる。予算の関係もあり、緑化フェアの実施と併せて完了するかは未定である。

<都市計画課長>

水と緑の基本計画の今後について説明させていただく。今年度で改定作業が終わり、今月31日に予定している亀岡市都市計画審議会で報告させていただいた後、パブリックコメントを4週間実施し、最終校正を経て完成する予定である。冊子の表紙は亀岡高校美術科の2年生に制作していただいているところである。

[まちづくり推進部退室]

10:14

[上下水道部入室]

[上下水道部長あいさつ]

(1) 水道課発注工事の事故後の経過報告について

[水道課長 説明]

10:19

[質疑なし]

[上下水道部退室]

10:20

[産業観光部入室]

[産業観光部長あいさつ]

(1) 亀岡オーガニック農業スクールの開校について

[農林振興課副課長 説明]

10:26

[質疑]

<齊藤委員>

受講者の住所は。

<農林振興課副課長>

プロ養成コースに申し込まれているのはすべて市外の方である。オンラインコースにはアイルランド在住の日本人の方も申し込まれている。

<小川委員>

定員に達していない場合でも亀岡市から追加の費用負担などはないのか。

<農林振興課副課長>

定員の半数に達していれば運営は成り立つ。本日の京都新聞にも掲載されており、期限間近まで募集していきたい

<山木委員>

受講される際などの補助はあるのか。

<農林振興課副課長>

基本的に補助はないが、就農に際しての支援制度などがないか京都府に確認しているところである。

<齊藤委員>

本日の京都新聞に掲載された経過は。

<農林振興課副課長>

マイファームという事業者が委託事業として実施した有機農産物マッチング商談会の取組を新聞に取り上げていただいたものである。事業者からのつながりで京都新聞にも知っていただいたと考えている。

<産業観光部長>

マイファームの中村社長が事業を展開するにあたり、ビオ亀岡という事業所を亀岡市で立ち上げていただいた。かなり発信力のある方であり、東京で開催されているオーガニックライフエキスポを京都で開催していただけることにもなった。亀岡の取組を発信できるよい機会であると考えている。

10:32

(2) オープンイノベーションセンター・亀岡におけるスマートアグリハウスの進捗状況について

[商工観光課長 説明]

10:37

[質疑]

<齊藤委員>

韓国などの先進的な事例を取り入れるべきではないのか。

<商工観光課主幹>

スマートアグリハウスは研究用の施設であり、バイオ環境学部が主体で事業を進めていくこととなる。先進事例なども研究しながら事業を進めていきたい。

<齊藤委員>

以前もバイオ環境学部でビールに関する研究施設を設置されたが、なかなか事業が進まなかった経過がある。今回は亀岡市も連携して次につながるような事業を展開していただきたい。これは要望としておく。

<片山委員>

工事に当たり、基本的には競争入札を実施し安価な事業者を選定いただきたいと考える。今回3者見積りで随意契約とした根拠は。

<商工観光課長>

亀岡市の工事であれば競争入札を行う金額であるが、不適格な事業者の選定が難しいところもある。今回はハウス建設の実績などを考慮し、対応可能な事業者に見積りを依頼したと聞いている。

<片山委員>

ハウス建設を行う大仙、基礎工事を行う創建工房は亀岡市内の事業者なのか。

<商工観光課長>

大仙は大阪府茨木市、創建工房は亀岡市大井町の事業者である。

<片山委員>

見積りを依頼したほかの事業者は亀岡市の事業者なのか。

<商工観光課長>

亀岡市外の事業者ではあるが、近隣で実績のある事業者に見積りを依頼したと聞いている。

<片山委員>

亀岡市として大きな金額を支出しているので、できれば亀岡市内の事業者で選定いただきたい。またスマートアグリハウスで行うような水耕栽培を今後亀岡市としても重点的に進めていこうと考えているのか。長期的な展望は。

<商工観光課長>

農業従事者の高齢化や担い手不足を解消するためには、農業の効率化・高付加価値化を図ることが必要であると考えている。水耕栽培そのものを重点的に進めるというよりも、効率化などを図るための施設としていきたい。

<産業観光部長>

こういった研究を行っているということを全国に発信することで、就農希望者が亀岡市に興味を持つきっかけにもなると思う。農林振興課とも連携し、情報発信や実証実験に取り組んでいきたい。

<小川委員>

ハウスの空調や温度管理の設備は入っているのか。

<商工観光課長>

温度管理の設備が入っている。

<小川委員>

温度管理なども含めてしっかりと研究いただきたい。

10:48

(3) 健康経営の促進等に関する連携協定について

[商工観光課長 説明]

10:51

[質疑]

<片山委員>

協定に基づく事業で費用が発生した場合にはどのように負担するのか。

<商工観光課長>

この協定ではアクサ生命保険株式会社から講師派遣やノウハウの提供、協会けんぽの健診データの提供を受けることとしており、そういった事業に伴う費用は基本的に同社が負担いただくものである。亀岡市は場所の提供や情報発信、亀岡商工会議所は事業所に向けた情報発信や健康経営の促進を行うものである。

[産業観光部退室]

10:54

3 その他

<木村委員長>

今年度は「新たな産業イノベーションの発展について」をテーマとして活動してきた。来年度のテーマ案を次回の委員会までに各自事務局へ提出願う。

(全員了)

<木村委員長>

次回は、2月7日(水)特別委員会において委員会を開催する。正副委員長の互選をお願いする。

散会 ～ 11:00